

海岸植生や里山林の生物多様保全に関する研究、 絶滅危惧植物の保全に関する研究

教員名：黒田有寿茂

連絡先メールアドレス：kuroda[atmark]hitohaku.jp

◎ どのような研究をしていて、どんなことに役立つのか？

私たち人間の活動は、かつてないほどの規模と速さで自然環境の消失・劣化を進めています。このような中、生物多様性に配慮した植生の保全・再生は、健全な生態系の維持に向け極めて重要な課題となっています。その取り組みを実際に進めていくためには、対象となる植生の現状や成立の背景、個々の種の生育環境や生活史特性について十分理解しておく必要があります。これらの知見の蓄積と応用を目的に、私は現在、海岸植生や里山林、またそこに生育する絶滅危惧種を主な対象に、野外調査や発芽・栽培試験をベースとした植生学的・生態学的研究を進めています。



◎ 主な研究業績

- 1) 《海浜植生の成帯構造に関する研究》 A. Kuroda & S. Tetsu (2017) Vegetation zonation and distribution of threatened dune plant species along shoreline-inland gradients on sandy coasts in the eastern part of the San'in region, western Japan. *Vegetation Science* 34: 23-37.
- 2) 《海浜植物ウンランの保全に関する研究》 黒田有寿茂・藤原道郎・澤田佳宏・服部 保 (2017) 瀬戸内海沿岸における海浜植物ウンランの保全・再生の可能性. *植生学会誌* 34: 87-102.
- 3) 《マツ林に関する研究》 黒田有寿茂・豊原源太郎 (2017) 「マツ林」, In: 福嶋 司 編著『図説日本の植生 第2版』, pp 28-31, 朝倉書店, 東京.

◎ 学生に向けて一言

植物の生態や植生の保全・再生について興味・関心があり、これらに関連する研究を進めたいという方は、気軽にご連絡ください。